

## 2. 授業公開・検討会

# FD ワークショップ 授業公開・検討会

## 今年度の実施日程

### 第1回

日 程：2017年1月12日（木）1時限目

担当者：高橋 有紀 先生（行政政策学類）

科 目：刑事裁判法Ⅱ

### 第2回

日 程：2017年1月17日（火）2時限目

担当者：福田 慎 先生（経済経営学類）

科 目：経済統計論

### 第3回

日 程：2017年1月19日

担当者：白石 豊 先生（人間発達文化学類）

科 目：教養演習Ⅱ

## 第1回授業公開検討会

日 時 平成29年1月12日(木) 1時限  
8:40~10:10 授業公開 (S22 教室)  
検討会 授業終了後に実施  
授業科目 「刑事裁判法Ⅱ」  
授業者 高橋有紀先生(行政政策学類)



### 授業者からの報告

#### 1. 授業の概要

福島県で起きた昭和と平成それぞれの大事件である「松川事件」、「福島原発事故」における刑事手続上の特徴や問題点などを検討することを通じて、いわゆる「六法」の一つである「刑事訴訟法」の基礎事項を理解し、刑事裁判の意義や課題を考察する科目です。

それらを通じて、刑事手続の役割、刑法・刑事訴訟法の意義などについて理解と考察を深めるとともに、政治・社会的観点から注目されがちな事件について、「法律」や「裁判手続」の観点から検討する視座を涵養することを最終的な目的としています。

#### 2. 授業実践上の工夫等

一般的に「法律学(法解釈学)」の授業は、条文の順番に沿って、その解釈や適用について体系的に説明することが想定されており、教員自身の学生時代を思い起こしても「教科書や判例集を教員が読み上げるだけ」のような授業も少なくありませんでした。しかし、殊、「生きた法」と言われることの多い「刑事訴訟法」においては、条文の解釈や適用について教科書に書かれた「公式見解」と実際の刑事手続で起きていることの間には相違がある場合や、市民的な「正義感」と条文で定められた決まりとの間に隔絶があるように感じられる場合も多くあります。そのため、「刑事裁判法Ⅱ」では具体的な事件を取り上げることで、刑事手続の流れや条文の意義を具体的なイメージを伴って理解させるとともに、ともすれば市民感覚に沿わないと感じられる制度や条文の存在意義を深く考えさせることを意識しています。

また、「地域の課題を解決する」という理念を掲げる本学において、法律学の授業はそうした理念に直結しないと考える学生も少なくありません。しかし、教員は「松川事件」「福島原発事故」いずれについても、刑事手続のあり方について様々な示唆に富むと同時に、これまで刑事訴訟法学者が十分に検証してこなかった問題を数多く孕んだ大変興味深いケースであると考えています。そうした示唆や問題は「観光」や「商品化」といった形で地域に直接的な利益をもたらすものではないのかもしれませんが、学生には、この授業を通して刑事手続や刑事法の特徴や意義について、「福島にいたからこそ知ることができた」と感じてほしいと考えています。

## 第2回授業公開検討会

日 時 平成29年1月17日(火) 2時限  
10:20~11:50 授業公開 (S42 教室)  
検討会 授業終了後に実施  
授業科目 「経済統計論」  
授業者 福田 慎 先生 (経済経営学類)



### 授業者からの報告

#### 1. 授業の概要

この科目は、経済経営学類の3年生を対象に、社会科学の分野における数値データを利用した実証分析の手法を学習することを目的としています。位置付けとしては、「統計学」と「計量経済学」を履修した後のより実務的な部分を担っているところにあります。また、単純にデータ分析を行う方法を学ぶのではなく、計量経済学の理論にも重点を置いたものとしています。たとえば、データサンプリングをどのようにするかに始まり、もっとも基礎的な分析手法である最小二乗法の理論を詳細に検討することを行い、この手法を用いることが不適切となるケース、そして、その場合の妥当な分析手法を理論的に確認することを行っています。

カバーしている内容は、最小二乗法に始まり、より一般化された一般化最小二乗法、そして、内生性を除去するための操作変数法という流れになっています。加えて、学生の卒論では時系列データが扱われることが多々あると考え、時系列データの取り扱いについての注意、そして、ファイナンス分野で用いられる ARCH モデルと GARCH モデルを紹介しています。

こうした実証分析に関する手法を理論的に学ぶことも重要ですが、統計ソフトで実装したり結果について解釈することがより重要となります。高度な計量分析処理を行うことができる統計ソフトには高額なものが殆どですが、最近では無料で入手することができるものも多く開発されてきています。その中でも本講義で使用している gretl(グレーテル)は、データ・ファイルの作成から実際の分析までの手順が非常に簡単な操作で行えるという利点があります。この講義では、レジュメに操作手順を記載し、結果の見方を紹介しています。

#### 2. 授業実践上の工夫等

実証分析の方法に関する正当性を理論から学ぶ

回帰分析を行う際、母集団から抽出された標本データから推定されるパラメータには不偏性や効率性(その他、一致性)が満たされることが求められています。これは如何なる分析手法であっても満たされるべき特性であり、基礎的な分析手法である最小二乗法ではもっとも多くの仮定が成り立っていることが求められます。ただし、この仮定は非常に強いものであることから、本講義の中心となる部分では、これが成り立たない場合に、どのよ

うに手法を変更することで先の特性が満たされるようになるのかを詳しく紹介しています。

### 3. 無料ソフトで実装する取り組み

実証分析で重要となるのは、先ほどの仮定が満たされているのか満たされていないのかを確認し、正しい手法を選択するという点です。まず、仮定が満たされるかどうかについては仮説検定が必要となります。その後、検定結果に基づいて分析手法を選択することになります。こうした手順は計算上、複雑なものであるため、高度な統計ソフトが必要となります。しかし、こうした統計ソフトは価格が高いものが殆どであり、学生が卒論で使うにはコスト的に問題であると考えられます。そこで、近年、開発が進んでいる無料で高度な統計ソフトを用いることを推奨することにしています。その中で、本講義では gretl を使用することを選択していますが、このソフトには簡単な操作手順により複雑な推定方法を行うことができるという利点があります。実際のデータを使用し、仮定に関する仮説検定の方法、そして、適切な推定方法を紹介するところを本講義の特徴的な部分と考えております。

### 4. 理論と実証の結びつきを考察する

実際にデータを用いて実証分析を行い、その結果についての解釈を考えることを行っています。たとえば、他の講義で学んだ理論や考え方に基づき、経済モデルを組み立て、そのモデルと実際のデータを結び付けることで計量経済モデルが出来上がります。そのモデルを標本データから推察する作業を行うわけですが、最終的には結果の見方が理解できなければ意味がありません。そこで、本講義では、実際のデータを使用して得られた推定結果と検定結果から、ロジックの組み立てを考えることもしています。非実験データを取り扱っているということはありますが、科学的根拠から推定手順を踏んでいき、そこから得られた結果を中立的な立場から考えることは、社会科学にとっても重要であると考えます。

### 5. 講義を進める上での問題点

講義を進めるに当たり、幾つかの問題点もあります。たとえば、講義を履修する学生が、本講義の前に「統計学」と「計量経済学」を履修しているかどうかです。本講義は、各回を独立的に考えることはできますが、統計学や計量経済学で学んだ最小二乗法の特徴を理解しているかどうかに関わってきます。本講義でも復習を行いますが、「計量経済学」の講義ほど詳しく取り扱うことはしません。そのほか、統計ソフトを学生が実際に体験できるかどうかは、学生が自身の PC にそのソフトをインストールするかどうか依存します。本講義で使用するソフトは無料のものですが、無料ソフトには良し悪しが必ず付いて回ります。可能であれば学内の PC にインストールしてもらい、学生が自由に実践できる環境が作られることを望みます。

### 第3回授業公開検討会

日 時 平成29年1月19日(木) 3時限  
13:00~14:30 授業公開 (M4 教室)  
検討会 なし  
授業科目 「教養演習Ⅱ」  
授業者 白石 豊 先生 (人間発達文化学類)



#### 授業者からの報告

大学生の学力低下が叫ばれるようになって久しい。こうした事情を受けて各大学では、大学生として必要な「学ぶ力」、すなわち「スタディスキル」を習得させるための授業を、大学1年時に設ける試みを行うようになった。今から20年ほど前のことである。そうした授業は、「教養演習」、「基礎演習」などと呼ばれ、現在ではどこの大学でも行われるようになっている。

私も本学で、15年ほど前から1年生対象の「教養演習」の担当者として何度となく授業を行ってきた。その集大成が今年度行った「教養演習Ⅰ・Ⅱ」である。そしてその最後となったのが今回の授業であり、FDとしてのタイトルは、「あなたもパワーポで学生を眠らせていませんか?」としたが、学生用には「プレゼンテーションの技術」とした。

配布したレジメはA4で6ページだったが、その内容は以下の通りである。

- 1 プレゼンテーションとは何か
- 2 何のためにプレゼンテーションをするのか
- 3 なぜ多くのプレゼンテーションは退屈なのか(「パワーポイントによる死」)
- 4 記憶に残るメッセージの6要素
- 5 物語を語る(ストーリーテリング)
- 6 プレゼンテーションの準備 = 抑制(伝えたいことの絞り込み)
- 7 デザイン(スライド作成、または発表原稿・スタイル、話し方)

今回の授業には、学外(県内外)からも多くの参観者があった。授業内容はすべてビデオに撮影し、総合教育センターに配布資料と合わせてDVDとして保管しているので、必要に応じて参照されたい。